



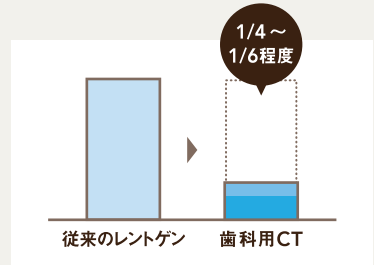
先月号でご説明した歯科用CTについての続編としまして、今月号では歯科用CTにおける被ばく量についてご説明したいと思います。

今の特集 歯科用CTの放出する放射線量について

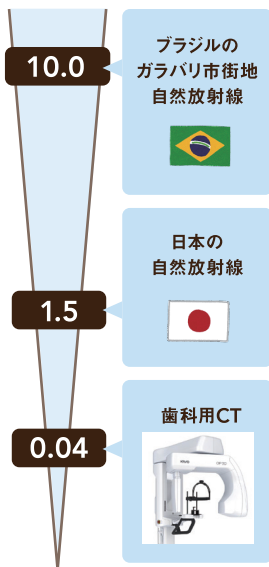
放射線に「ばく露する(さらされる)」ことを「被ばく」といいます。先月号でお話した歯科用CTですが、エックス線を照射していることから被ばく量のご心配をされる方もいらっしゃると思います。今月はCTの被ばく量についてご説明させていただきます。

被ばく量の違い

精密な画像・情報が得られる歯科用CTは、従来のレントゲン撮影よりも被ばく量が大きくなりそうですが、実際はその反対です。フィルムを使ったアナログ撮影によるレントゲンと比較した場合、**歯科用CTによる被ばく量は1/4～1/6程度にとどまります。**これは患者様にとって極めて大きなメリットといえます。



実効線量比較



歯科用CTによる被ばく量は「0.04ミリシーベルト」程度

生体への被ばくの大きさは「ミリシーベルト」という単位で表現されます。三次元的な画像が得られるコーンビームCTで撮影した場合、1回あたりの被ばく量は0.04ミリシーベルト程度となります。この数値だけでは果たして多いのか？ 少ないのか？ よくわからないかと思います。そこで私たちが普段、生活をしていて自然に被ばくしている放射線の量について説明します。

日本の年間自然放射線量は「1.5ミリシーベルト」程度

普通に生活をしている中で誰もが受ける放射線を「自然放射線」といいます。この自然放射線の量は住んでいる地域によって大きく異なり、比較的多い所ではブラジルのガラバリ市街地における「10.0ミリシーベルト」が有名です。私たちが暮らしている日本では、年間自然放射線量は平均で「1.5ミリシーベルト」程度となっています。先ほどご紹介した歯科用CTによる「0.04ミリシーベルト」の被ばくがいかに少ない数値であるかわかるかと思えます。

自然放射線



歯科用CTでより正確な診断、安全性の高いインプラント治療が可能に

歯科用CTは、顎の骨の幅・奥行き・深さを正確に把握でき、精密な画像診断が可能です。そのため、顎の骨にチタン製の人工歯根を埋入するインプラント治療で広く活用されています。インプラント用サージカルガイドを作製する際にも有用です。



インプラントNL (Vol.35)



まとめ

このように、歯科用CTによる撮影を行うことで、従来のレントゲン撮影では得られなかった三次元的な画像・情報が取得可能となります。その結果、インプラント治療や親知らずの抜歯、根管治療といった専門性の高い歯科治療も安全性を確保した上で実施できるようになりました。

当院では2台の歯科用CTによる精密診断を導入しており、確実に質の高い歯科治療を目指しております。

注 シュンデンタルクリニックでは、妊娠中など、放射線被ばくをできるだけ避けたい場合は撮影を見送る場合もございます。

事務長の孤独のグルメ

今月の孤独のグルメは、

〒041-0812 北海道函館市昭和2丁目1-23

ラーメンルームワンエイト (RAMEN ROOM 18)

定休日、店休日、飲食店の自由裁量。いつ休んでもいいし、いつ閉店しても自由。医療機関には認められていない裁量権。医療機関は基本的な時間と曜日を保健所に届けるので、自由に診察時間を伸ばしたり短くしたりはできない。基本許可制だ。通りがかりに毎度暖簾をチェックする店がここだ。

「あっ！」Uターンしてもチャンスとあれば行きたいラーメン屋。

言わずと知れた18。元祖ラーメンもいいけど、進化系ラーメンもまたいい。クラシックカーと、電気自動車。どちらも結局好きなんだよ。だって…うまいんだもの。勿論完汁してフィニッシュ。元祖と進化、毎日食べるならどっち?? 愚問だよ。俺は2杯食べるから…ごちそうさまでした。



シュンデンタルクリニック

〒041-0802 北海道函館市石川町 461-38 TEL 0138-47-3737

<http://shundc.jp/>